



日立市のコミュニティ情報紙

こみこみ

No.21

発行日/2008.2.20
発行/日立市コミュニティ推進協議会
編集/コミュニティ情報紙編集委員会
日立市役所市民活動課内 ☎0294-22-3111
〒317-8601 日立市助川町1-1-1

特色ある学区のコミュニティ活動を 認識する機会にも

事例発表 さくら・仲町学区 総参加・日高学区
元気っ子・会瀬学区

第25回地域づくり団体全国研修交流会の第4分科会が、2月1日～2日の2日間日立市で開催され日立市コミュニティ推進協議会が主管、「地域のコミュニティ活動」をテーマに3学区が特色ある活動を発表しました。

初日は、午前9時30分から午後3時まで、県民文化センターでポスターセッション、ワークショップ、トーク「地域が人をつくる・人が地域をつくる」などの全体会が開催され、その後、17市町へ会場を移動しての分科会となったものです。

第4分科会は日立市コミュニティ推進協議会が主管、午後4時30分からシビックセンターを会場に、北は青森県から南は沖縄県の全国の参加者29名を迎え、市内23コミュニ

ティ推進会のリーダー80名が加わり活発な研修会が行われました。テーマは「地域のコミュニティ活動」、3学区が特徴ある活動を報告しました。「市の花さくらを活かす活動」を仲町学区コミュニティ推進会、「住民総参加型地域づくりイベント」を日高学区市民自治会、「地域で育む元気っ子事業」を会瀬学区コミュニティ推進会が映像を交えて発表、多くの質問もありました。

仲町学区には、作業の方法、活動資金の補助、行政の関わり。日高学区には、会費の集め方、町内会の加入率、輪番制の支部とのコミュニケーション方法、コミュニティプランの策定、行政からの依頼事項の状況。会瀬学区には、年間プログラムと年会費など、鋭い質問もありました。

3学区の発表を通じ、各学区コミ

ュニティが知恵を出し合い、特色ある活動の実践に努力していることを改めて知る機会にもなりました。



交流懇親会で我がまちの特色をPRする参加者

続いて会場をマールホールに移しての交流懇親会では、仲町学区の「日立風流物保存会西町支部」の皆さんの人形演技と演奏で歓迎、まちづくり談義が続きました。

2日目は、まち案内人を依頼して日鉱記念館・吉田正音楽記念館の見学、会瀬交流センターでの元気っ子事業の現地視察となりました。



映像を交えて分かりやすく発表

厚生労働省と意見交換会

これからの地域福祉のあり方

1月15日(火)午前9時から、厚生労働省社会・援護局と「これからの地域福祉のあり方」について意見交換会が開催され、コミュニティから塙山学区住みよいまちをつくる会と諏訪地区社会福祉協議会が出席し、コミュニティ活動全般と現在実施している地域福祉活動、これらを推進する体制、浮かび上がっている課題などについて報告しました。

厚生労働省からは中村秀一社会・援護局長をはじめ、藤木則夫総務課長、藤崎誠一地域福祉課長などが出席、



厚生労働省と活発に意見交換

日立市からは大和田進保健福祉部長をはじめ、福祉事務所、社会福祉課、こども福祉課、高齢福祉課、障害福祉課、介護保険課、市民活動課、社会福祉協議会から出席し、日立市における地域福祉の現状や課題についてのヒアリングと意見交換が行なわれました。

厚生労働省から塙山学区や諏訪学区に多くの質問がありました。校区を活動のエリアと定めるメリットとデメリット、小学校区の安定性の問題、自治会や町内会での福祉活動の現状、社協会費の徴収と意思決定への参加システム、学区社協への交付金の問題、ニーズ発見の仕組み・相談体制・支援体制の状況、ボランティアの発掘方法、民生委員・児童委員に関する問題、専門機関や専門職との連携の現状、団塊世代の活動状況と企業の関わりなど多岐にわたりました。

2学区のコミュニティにとって国の考え方の一端を知るよい機会にもなりました

日立市と連携して土砂災害避難の訓練 地域住民の助け合いを確認

宮田学区の足房支部では、11月18日(日)に日立市との連携で土砂災害避難訓練を実施しました。足房支部は土砂災害指定地域ではありませんが、後方は山で前方が崖という地形になっている高台の住宅地であるため、学区内の危険箇所であるとみなし訓練を行なったものです。

午前8時50分に日立市から宮田学区への通報があり、交流センターで待ち受ける大内十寸会長が、該当地区の支部長に避難開始を発令して地域住民の避難が開始されました。

坂の多い地域で避難に要する時間を心配しましたが、住民による両隣への声かけや高齢者へのサポートも

あり、速やかに避難できました。避難場所では、水や粉末消火器による消火体験や応急担架の組立て方法などを学びました。

今回は約90名が参加し、地域が一体となって、多様な災害発生時に地域住民が助け合う連帯の必要性を学んだ貴重な訓練でした。



土砂災害警戒区域等の指定

茨城県では平成13年4月1日に施行された「土砂災害防止法」に基づき、日立市内の地形等を調査した結果、98地区(十王町を除く)が該当することになり、今後、土砂災害警戒区域等の指定が行われます。

土砂災害警戒区域とは、大雨時のがけ崩れなど、災害が発生する可能性のある場所を言い、区域の指定がなされると、大雨などで災害が予想される場合には、避難勧告や避難所などが用意されることになります。

すでに該当する学区には日立市生活安全課から説明会などが実施されており、学区の実情に応じて早急に情報伝達や警戒避難体制の整備をする必要があります。

季節を届ける ホームページの写真

昨年9月に念願の日立市コミュニティ推進協議会のホームページを開設しました。

また、同時に23の単会ホームページも開設に向けて努力を続けています。徐々に増えており、今年の1月現在、15単会がアップしており、多様な活動が全国へ発信されています。トップの写真を常に更新、季節を伝えるものや最新の活動など、訪問者を楽しませてくれます。

カウンターの数字はどんどん上がっていて、多くの人が閲覧していることがわかります。



楽しくつくるホームページ

再生ビン(雑ビン)の色分別収集 定着しています十王地区

十王地区コミュニティ推進会では、平成18年10月から再生ビン(雑ビン)の色分け分別収集に取り組んでいます。

この事業は十王地区で取り組んでいることから、北部をスタートに平成20年度は豊浦学区と日高学区をモデル地区として実施します。21年度は10学区、22年度には全学区で実施が完了する予定です。

この再生ビンの色別収集は、容器包装リサイクル法で少なくとも3色に分別することが求められています。市ではこれまで分別を専門業者に委託しており、そのための処理費用に年間約2,200万円を要していました。

再生ビンを3色に分けます。現在は

どの色も一緒に回収していますが、回収袋が①無色、②茶色、③その他の色の3つに分かれるので、その袋に入れます。生きビンとして回収するビンは、割れていないビールビンと一升ビンのみです。

この再生ビンの色分別は、各家庭での一人ずつの心掛けが大きな力になります。十王地区では定着しており、それほど大変なことではありません。



再生ビンの色別回収袋

ひとり芸チャレンジフェスタ

～はじめての一步の体験ゾーン&あの人の一芸みせます!～

何かを始めたいと思っている皆さん、ぜひ、来て、見て、体験してください!

- とき 3月9日(日)10～15時
- ところ 多賀市民プラザ
- 内容 さまざまなスポーツ・趣味などを体験できるコーナーや発表会。
親子で参加できるプログラムもあります。

【お問い合わせ】日立市民ひとり芸チャレンジ運動推進協議会事務局
(日立市教育委員会生涯学習課内)

☎0294-23-9150 IP 050-5528-5126 <http://www.cnet-hitachi.com/ichigei/>

地域のつながりを創る小正月行事

日立市内には五穀豊穡や健康などを願う小正月行事が、各地域で行われていましたが、時代とともに少しずつ形や意味を変えながらも現在に引き継がれています。これまでの行事がコミュニティ活動や学校行事などに取り入れられ、地域の人たちの新しいつながりを創っています。

【今年行われた主な小正月行事】

学区	名称	実施日	場所	対象	内容
日高	ふれあい鳥追い祭り	1月14日	日高交流センター	地域住民	餅つき、まゆ玉飾り(ミズの木に餅を飾る)、どんど焼き(正月飾りなど燃す)、昔遊びなどを行なう。
田尻	鳥追い行事	1月14日	田尻広場(田尻宿)	地域住民	餅つき、まゆ玉飾りを行なう。その後、竹で作った小屋で祈願祭を行ない、小屋を燃やす。
宮田	まゆ玉作り	1月20日	宮田交流センター	児童と保護者	まゆ玉飾り、カルタ取りを伝統行事伝承の一環として昨年から実施している。
中里	三世代まゆだま集会	1月19日	中里小学校体育館	学区住民	中里小が休耕田を借用。収穫米でついた餅を児童がミズ・ナラ・カシの木に飾る。雑煮を全員で食べる。
会瀬	浜の焚きあげ祭	1月15日	会瀬海水浴場砂浜	地域住民・会瀬小児童	祭壇を作り、神棚・しめ飾り・門松・お礼・お守り・だるまなどを重ね児童代表が点火。児童が歌を歌う。
河原子	子ども会親子凧作り	1月19日	河原子集会所 河原子海岸	学区子ども会 児童と保護者	高学年は六角凧、低学年は三角凧を親子で作製、河原子海岸に移動して凧揚げをする。
	幼稚園親子凧作り	1月22日	河原子集会所 河原子海岸	河原子幼稚園児 と保護者	レジバック利用の通称「クジラ凧」を親子で作製。河原子海岸南浜で凧揚げも行なう。
金沢	みんなであそぼう	1月26日	金沢交流センター	金沢小児童	餅つき、まゆ玉づくり(ミズの木に飾る)、どんど焼き(正月飾りや門松を焼く)、昔遊び。
水木	書初め会	1月5日	泉が森体育館	学区住民	参加者全員で書初めをする。
	まゆ玉まつり	1月14日	水木交流センター	幼児・児童	餅をつきまゆ玉をつくり、木に飾って五穀豊穡を祝う。
	凧揚げ大会	1月19日	水木交流センター	幼児・児童	講師の指導で各自が凧を作製し、凧揚げを楽しむ。
久慈	書初め教室	1月6日	南部支所	小3～6年生	参加者全員で書初めをする。



会瀬 浜の焚きあげ祭

地区社協との一体化 平成21年度から

コミュニティ組織と地区社協の組織の一体化(統合)について、日立市社会福祉協議会と協議を重ねた結果、統一的な運営は平成21年度総会時からとすることで、今年1月に正式に決定しました。

これまでの経緯

- 日立市社会福祉協議会より日立市コミュニティ推進協議会に一体化の申し入れ(平成18年8月17日)
- コミュニティ会長会議で協議(平成18年9月11日)
- コミュニティ臨時会長会議で決議(平成18年10月16日)
- 会長の一人制を承認、組織の一体



ふくしマップの作成中

化(統合)については、1年間の経過措置の中で進めていく事を承認(平成19年4月)。

- 行政と日立市社会福祉協議会で協議、組織の一体化について考え方を整理(平成19年9月20日、10月2日)。
- コミュニティ臨時会長会議で方針を決議(平成19年10月30日)
- 日立市コミュニティ推進協議会か

ら、日立市社会福祉協議会へ一体化(統合)方針(考え方)を申し入れる(平成19年11月7日)。

- 日立市社会福祉協議会から、日立市コミュニティ推進協議会の申し入れ事項に対し、基本的に承認する旨の回答あり(平成20年1月8日)。

市社協とコミ推協の合意事項

- ◆これまで地区社協が実施している地域福祉推進事業は各コミュニティ組織が継続して実施する。
- ◆地域福祉推進事業交付金等は市社協からコミュニティ単会に交付する。
- ◆コミュニティ単会は規則の改正等の手続きに着手する。
- ◆組織の一体化の時期は平成20年度を経過措置期間とし、統一的な運営は平成21年度総会時からとする。



単会リレー訪問 特色ある活動を紹介

小学校区をエリアにコミュニティ活動をする団体が23あります。地域福祉、防犯・防災、青少年育成、子育て支援、生涯学習、環境など地域の特性を活かした活動を進めています。今回は久慈学区と金沢学区の活動を紹介します。

花の道路で訪問者を歓迎

久慈学区コミュニティ推進会

久慈川を埋め立てた地区内に、「おさかなセンター」と、隣接して建っている「久慈交流センター」を訪れて、会長の星野高恵さん、事務長の横溝和生さんに話を聞きました。

久慈学区には青色パトロールの講習を受けた協力員が、33人もいて自警団の活動をしています。犬と一

ルドやサルビアなどの花を4千から6千株ほど育て、道行くドライバーの目を楽しませています。花壇の耕しから始まり、苗植え、水やり、除草、追肥などの作業が一年中あります。主に環境整備部のみなさんが当たっていますが、最近は久慈中学校の生徒が応援してくれるなど、活動に広がりが見られます。

今後、日立市の南の玄関口として、市を訪れる人たちを歓迎する看板を花壇に立てるといった計画などもあるそうです。

久慈交流センターができて5年を迎え、コミュニティの活動も活発に行っていますが、やはり活動を担う若い世代のボランティアの不足が悩みとのことでした。

組織充実し多彩な活動

金沢学区コミュニティ推進会

金沢交流センターの増築工事で慌ただしく立ち回っている金沢学区コミュニティ推進会会長の鴨志田勝雄さんに話を聞きました。

鴨志田さんは、日立市コミュニティ推進協議会の会長としてもコミュニティ活動の先頭に立って活動し、地区社協とコミュニティ組織の一体化(統合)などに尽力しています。

金沢学区では、平成19年度から地区社協の活動を進めるために、コミュニティ組織の中に「ボランティア活動部」「安心安全ネットワーク部」「ふれあい活動部」「健康づくり部」の4つの専門部を設けて、コミュニティ推進会と地区社協を統合しました。

現在では12の専門部がそれぞれ活発に多彩な活動を繰り広げています。組織の中には、「ふるさと創生塾部」といったユニークな名称の部があります。この部は金沢学区を構成している人のほとんどが団地の住民なので、ふるさとづくりを意識してもらおうということで生まれた部です。



防災訓練 バケツリレー

花いっぱい運動や地域の活性化、里山の保護、伝統文化の伝承などの活動を目指しています。この部が取り組んだ日立市の花いっぱい運動のコンクールでは、19年度の最優秀賞を受賞しました。そのほか、青少年育成の一つとして、カブトムシの飼育、わらぞうり作りなど、アイデアを活かして活動しています。

学区内の老人会組織を活かした自警団組織は、平成17年度から「地域安全安心ステーション」のモデル地区として、警察庁の指定を受けて活動しています。

その他に「かねさわ元気っクラブ」、生涯学習「かねさわ大学」、幼稚園や学校と協働で行なう住民文化祭など、それぞれの分野で多彩な活動を展開しています。



暑い夏も寒い冬も作業が

緒に散歩をしながらのワンワンパトロールや、携帯電話での不審者情報の発信など、防犯への取組みには大変力を入れている学区です。

「活動の目玉は？」との問いに、二人は即座に「国道245号線の里親制度花いっぱい運動」と答えてくれました。この活動の発端は、地域の美化に取り組みたいという星野会長の熱意で、葉ボタンを植えたプランターを地域内に設置しましたが、虫の害にあって大失敗。困り果てていたところに、県から道路の里親制度の話があり、「これだ!」ということになり、平成15年に取組みを始めたものです。

路側帯1.4kmに花壇を作り、冬はパンジーやビオラ、夏はマリーゴー